

■金子直吉 <第一次世界大戦>の特需で、{鈴木商店}を{三井}{三菱}に迫るまでに発展させたが、恐慌で破綻した。

かねこなおきち

薩長同盟・1866＝ 土佐国(高知県)吾川郡で、商人の子に生まれる。

明治維新・1868＝ 2歳：明治維新後、両親とともに高知に移住。

明治6年政変 1873＝ 7歳：  
極貧のため小学校にも行けず、

初の民間工場1875＝ 9歳：この頃から、屑買いや丁稚奉公・店員として苦勞を重ね、

明治14年政変1881＝15歳：

秩父事件・1884＝18歳：

帝国大学始・1886＝20歳：\_ようやく、神戸の砂糖・樟腦商{鈴木商店}店員に雇われた。

帝国憲法発布1889＝23歳：

郡司千島探検1893＝27歳：

日清戦争始・1894＝28歳：\_店主の病没後、未亡人のもとで番頭として業務を主宰、

\_台湾総督後藤新平に協力して、

Bushidou・1899＝33歳：\_台湾樟腦専売法を成立させ、

ビブ/国産化・1900＝34歳：\*台湾産樟腦の65%の販売権を得、同商店の発展の基礎を築き、

教科書疑獄・1902＝36歳：\*合名会社への改組とともに支配人となり、経営の重責を担う。

日比谷公園・1903＝37歳：北九州に大里製糖所を創設、

日露戦争終・1905＝39歳：小林製鋼所を買収して神戸製鋼所と改称、

韓国反日暴動1907＝41歳：大里製糖所を650万円で大日本精糖に売却し、それを資金に\_一気に業務の拡大に乗り出し、

明治末年までに、\_大日本塩業・合同油脂・帝国麦酒など創立したほか、

大逆事件判決1911＝45歳：

明治天皇没・1912＝46歳：

\_日本製粉・山陽電鉄・大正生命・日本金属・六十五銀行など多くの会社の設立に関係し、

第一次大戦始1914＝48歳：第1次世界大戦開始後、

\_鈴木商店は3国間貿易で三井・三菱を凌ぐ取引高をあげ、

本格政党内閣1918＝52歳：重化学工業を含む50数社の\_傘下企業群の規模も三井・三菱に迫り、

大暴落・1920＝54歳：\*資本金を一挙に5000万円に増加したが、戦後恐慌が起こって一気に資金難におちいり、

原敬首相暗殺1921＝55歳：

関東大震災・1923＝57歳：巨額の融資を受けていた台湾銀行から下坂藤太郎が派遣され、そのもとで整理・改革に当たるものの、

金融恐慌・1927＝61歳：\*金融恐慌で台湾銀行が取引中止となり、鈴木商店は破綻した。

世界恐慌・1929＝63歳：

\_以後、海外事業などを計画し、再建をはかるも、不成功に終り、

満州事変・1931＝65歳：

財閥系企業者とは対照的に先見性と冒険精神に富み、また数社を除いては自ら重役には就任しなかった。

日中戦争始・1937＝71歳：

健保+総動員 1938＝72歳：

日米開戦・1941＝75歳：

年金+総武装 1944＝78歳：\_没した。